

理窓会 千葉支部 教職員部会 会報

第55号

「何ができるようになるか」

理窓会千葉支部 教職員部会会長

千葉県立千葉中学校・千葉高等学校長

高梨 祐介



どさまざまあります。大人と子どもに明確な境界を引くことができるものがある一方で、その境界はつきりしないものもあります。

情報化社会の進展が、大人と子どもの境界をなくしてしまったという話しを以前聞いたことがあります。インターネット等がまだ発達していない頃は、私たちが手に入れられる情報は、新聞や書籍、テレビやラジオ、また伝言など、限られたものからでした。その頃は、大人と子どもで手に入れられる情報には差があり、その境界もはつき

りしていたのではないかと思います。現在、私たちの周りには情報が溢れています。一人の人間が処理できる情報量は限られています。それをはるかに超える莫大な量の情報が目の前にあり、望めば容易に手に取ることができます。これは、大人はもちろんですが、子どもでも同じです。大人と子どもの間に、手に入れることのできる情報の壁はありません。情報を手に入れるという点では、大人と子どもの違いはない社会となっており、もはや子どもはいなくなったと言っている人もいます。

学校ではどうでしょうか。「先生と生徒の違いはなんですか」と聞かれたら、どう答えますか。先生から生徒へ、単に知識の伝達のみであれば、その知識は、教科書や生徒の手の中にあるスマートフォンから得られる情報で十分かもしれません。大人と子どもの関係がそうであるように、情報、この場合は知識ですが、それを手に入れることについて、先生と生徒の境界線は

なくなっていると言えます。このような情報化社会の中で、生徒は学校教育において、何を学び、何を身につけることが求められているのでしょうか。また、学校の存在意義、私たち教職員の存在意義はどこにあるのでしょうか。

学習指導要領には、学校で学んだことが、子どもたちの「生きる力」となって、明日に、そしてその先の人生につながってほしいとの願いが込められています。学校教育では、「何を学ぶのか」だけでなく「どのように学ぶのか」が重要で、知識を習得することはもちろん大切ではありますが、他者と協働しながらその解決に向けて取り組んだり、その知識を使って問題を発見したり、社会や世界とどのような関りができるかなど、「何ができるようになるか」を学んでいきます。学校での学びをとおして、社会で活躍できる、明日を切り拓いていける力を身につけていきます。

社会の変化は本当に激しく、そのスピードも加速度を増しています。

す。目の前にいる生徒たちは、将来の社会の担い手として、いずれ社会に飛び出し、その急激な変化に対応することが求められます。日々の学校教育活動の中で、問題解決能力やコミュニケーション能力を身に付けさせ、社会や世界とのつながり等を意識させることが必要です。生徒一人ひとりが、自己実現のために、目標をしっかりと定め、それに向けて主体的に取り組むことができるようになることが、私たち教員の責務であると思います。



窓生のネットワークにより、多くの先生方と知り合うことができ、多くの刺激を受け、私自身の教員生活が充実したものとなりました。現在、組織の更なる活性化を目指し、顧問や役員の方々にご尽力をいただき、若手の先生方や教職を目指す大学生にも声掛けをして、総会等への参加を促しております。同窓生の絆は世代を越えて強いものです。多くの同窓生が理窓会のネットワークで繋がり、切磋琢磨

し、互いに高め合うことができれ
ばと思います。

理窓会千葉支部教職員部会の活動のさらなる発展のため、千葉支部役員、事務局の方々とは協力しながら尽力していきたいと考えております。引き続きどうぞよろしく
お願いいたします。

令和六年度 理窓会千葉支部 総会報告

令和六年八月二四日(土)、ポートプラザちばを会場に令和六年度理窓会千葉支部総会が開催されました。

支部の総会に先立ち、教職員部会の総会が行われました。部会長が県立船橋高校・風戸正校長から県立千葉中学校・高校・高梨祐介校長に引き継がれました。

その後、支部総会が行われました。大学からは来賓として浜本隆之理事長、山崎晃弘理窓会副会長、

酒井陽太維持会会長をお迎えし、総勢六三名が出席しました。また近県支部として東京支部、神奈川支部、埼玉支部から、さらにこうよう会からも来賓を迎えました。

支部総会では令和五年度の活動報告と決算報告、および令和六年度の活動計画と予算が承認されました。また二期・六年間にわたって務められた杉浦雅美支部長が相談



鈴木隆文 新支部長



杉浦雅美 前支部長



参加者の集合写真



石川正俊学長のビデオメッセージ



浜本隆之 理事長

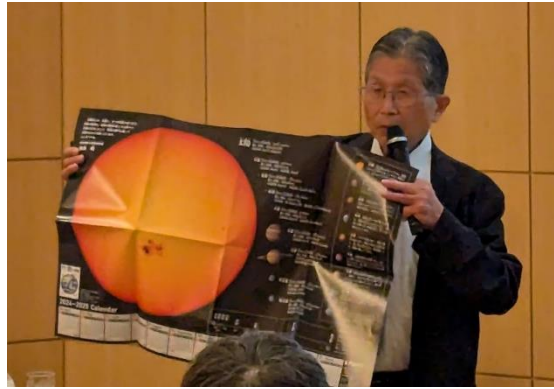
役へ、さらに鈴木隆文新支部長が就任しました。
総会のあとは大学からの報告会が行われました。浜本隆之理事長から大学の展望についてお話があり、続いて石川正俊学長からのビデオメッセージが放映されました。



祥子さん ミニライブ

講演会は東京理科大学栄誉教授であり元学長の藤嶋昭先生をお迎えし、「科学を楽しく」という演題で御講演いただきました。
記念撮影を終えて懇親会が行われました。水野澄顧問による乾杯の御発声のあと、参加者が次々に登壇しスピーチを行いました。特に学生や新社会人の方々の登壇には先輩参加者からの期待が膨らんでいたように思います。祥子さんのミニライブも行われ、会場は盛り上がり、会員相互の交流も大いに深まりました。

藤嶋先生は1966年に横浜国立大学工学部を卒業し、1971年に東京理科大学大学院工学系研究科博士課程を修了、工学博士の学位を取得しました。大学院時代に光触媒の研究をスタートし、その後、東京理科大学工学部の教授を経て2010年から2018年まで東京理



藤嶋 昭 先生

講演会 「科学を楽しく」

東京理科大学名誉教授・元学長
藤嶋 昭 先生

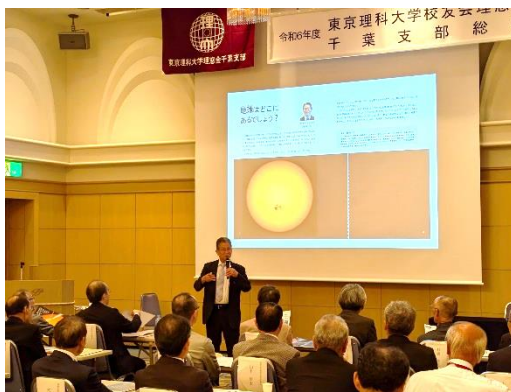
科大学の学長を務められました。また数々の学会や財団の理事長を歴任されました。

また藤嶋先生は第一線で活躍される研究者でありながら、理科教育にも尽力されました。今でも年間20回ほどは出前授業に赴き、小中高校生を相手に楽しく科学を語っています。今回の講演会も「科学を楽しく」という演題で、御自身の著書『地球のびっくり! 数の図鑑』を題材に太陽や地球に関する数の話をわかりやすく教えていただきました。

例えば、109分の1とは何の数字か。これは太陽に対する地球の直径の比です。実際に太陽の写真を見ながら、黒点の大きさよりも大分小さいのが地球であり、太陽の巨大さを改めて理解することができました。また、太陽から地球に光が届くには約8分かかります。ゆえに見えている太陽は約8分前に輝いていたもの。これも有名な話です。ところがなぜ正確な数値ではなく、「約」8分なのだろうか。

これは地球が楕円軌道であり、地球と太陽の距離は変化するから定められないとのこと。このような意外なところからも興味深い事実が浮かび上がってきます。

このような調子でおおよそ70分間、終始楽しみながら科学の話を聞かせていただきました。東京理科大学の建学の精神は「理学の普及を以て国運発展の基礎とする」です。第一線の研究者でありながら理科教育にも情熱を注ぐ藤嶋先生は、この建学の精神をまさに体现されている方です。御年八二歳



講演の様子

ですが、その年齢を感じさせないバイタリティーは我々も見習うべきことと思いました。今後も研究と理科教育の二足わらじで御活躍されることを願っております。





理窓会千葉支部教職員部会顧問
(第二代会長)の宮崎仁志先生
が令和五年秋の叙勲にて、瑞宝小
綬章を受賞されました。宮崎先生
の御経歴と本人からのコメントを
紹介させていただきます。



宮崎仁志 先生

祝・瑞宝小綬章 受章
宮崎仁志 先生

(御経歴)

昭和四九年三月 理学部化学科卒
業
昭和五〇年四月
千葉県立木更津高等学校 教諭
昭和六〇年四月
千葉県立君津高等学校 教諭
平成九年四月
千葉県教育庁学校教育部指導課
指導主事
平成一二年四月
千葉県立安房高等学校 教頭
平成一五年四月
千葉県教育庁教育振興部指導課
主幹兼学力推進室長
平成一七年四月
千葉県立天羽高等学校 校長
平成二〇年四月
千葉県教育庁北総教育事務所 所
長
平成二二年四月
千葉県立千葉女子高等学校 校長
平成二四年三月 退職

(コメント)

令和五年秋、はからずも叙勲受
章の栄に浴することができました。
昭和五〇年奉職以来三八年間、そ
の時その時に、自分が置かれた立
場何をすべきかを考え、その実
現に向けて、一つ一つ実践を積み
重ねてきました。それだけです。そ
れを評価していただいたというこ
とであれば、大変うれしく思いま
す。ただ、このことは、私一人で
きたということではなく、永年に
わり皆様方からいただいた心温か
いご指導、ご支援、ご協力があつた
からこそ、と、感謝の思いで一杯で
す。
今後はこの榮譽に恥じることのな
いよう一層精進し、些かなりとも
ご芳情に報いたいと存じます。

(以上)

今から十年以上前のことですが、
筆者がまだ三十代中頃の事務局員
のとき、懇親会の席で声をかけて
くださいました。若手を育てるた
め、仕事のお話だけでなく、宴席で

の振る舞いや挨拶など、社会人と
して大切なことを優しく教えてい
ただきました。本当にありがとう
ございました。心よりお祝い申し
上げます。

(文責・事務局長 飯島)



事務局より

教職員部会では県内の教職に携わる会員のネットワークづくりをしてきました。かつては紙の会報と総会の案内ハガキを郵送してきましたが、ペーパーレス化や個人情報観の観点からホームページによる会報の公開と総会の案内に変わりました。近くの職場にいても同窓生と分らないこともあります。ができるだけ参加する会員を増やしていきたいと思っています。そこで千葉支部では、以下のようなメール登録しております。ぜひ県内会員にお声がけいただいて、登録をお願いします。



メール登録

▼上のQRコードをスマートフォンで読みとり、メールを送信してください。返信メールが届きましたら、リンクを開いていくつかの質問に回答してください。内容は氏名や所属、卒年・学科等です。メールが届かない場合は迷惑メールに仕分けられたり、ブロックされたりしている可能性があります。▼QRコードが読みとれない場合は、次のアドレスにメールを送信してください。

risouchiba@mamail.jp

件名は空欄、本文は「入会」のみにしてください。

▼こちらのメール配信サービス（マメール）は、登録者に一斉に配信する機能を有しています。いわゆるメーリングリストのように相互に送り合うものではありません。維持・管理のために、月に一回程度テストメールが配信されます。

御案内

・千葉支部新年会

令和八年一月一二日（月・祝）

一二時から

みどり寿司・千葉店にて

・令和八年度千葉支部総会

令和八年八月二二日（土）午後

ポートプラザちばにて

新年会と次年度の総会の予定を掲載しました。マメールにて御案内がありましたら、お申込みください。また、お知り合いの会員の方も誘っていただき、会員のネットワークを広げていきたいと思っています。

編集後記

教職員部会の事務局長を引き継いでから九年目となります。その間、コロナ禍で会合が開けなかった時代を経験し、再び会議や懇親会を対面で普通に開催できるよう

になりました。理窓会千葉支部総会も活気を取り戻してきたと感じています。

しかしながら採用数の少ない世代が中堅となり、教職員部会を支える会員は極めて少ない状況となっています。一方、現在採用数は増えてきましたが、デジタルネイティブのZ世代にとって同窓会はオンラインや少人数でのカジュアルな会合を好むようで、幅広い世代での大規模な会合はなじみないかもしれません。とはいえ、ベテランから若手、そして学生が集まって交流することは貴重な場であり、経験を伝えていくことには大きな意義があります。さらには同じ世代の交流も図れ、ネットワークができると安心感が持てます。

ここ数年は関係者からの後押しもあり、大学から教職志望の学生や初任者が参加してくれました。同世代のつながりを維持しながら、新たに加わる世代とのつながりも作り、活気のある同窓会となつてほしいと願っています。